

## 1. 目指すべき庁舎像、備えるべき機能・性能（案）

### 1. 新庁舎整備の基本理念

現本庁舎の現状と課題、将来の庁舎機能に求められる社会的要請等を踏まえ、目指すべき庁舎像の基本理念を次のように設定した。

#### （1）市民に親しまれるおもてなしのある庁舎 ~ユニバーサルデザイン、市民交流の場の創出

年齢や性別、障害の有無に関わらず、すべての人が安全で快適に利用できるユニバーサルデザインに配慮し、誰もが訪れやすく、使いやすい庁舎を目指す。

市民が様々な目的で利用できるスペースを設け、憩いや交流の場となる空間づくりを行い、日ごろから気軽に立ち寄れる身近な庁舎を目指す。

#### （2）安全・安心、災害に強い庁舎 ~防災拠点の整備

地震・津波・風雨等の災害時やその他緊急時にも、災害対応の中心となる災害対策本部機能、災害時優先業務実施に必要な諸機能が持続可能となる防災拠点として整備し、市民にとって安全・安心のよりどころとなる災害に強い庁舎を目指す。

#### （3）機能的・効率的な庁舎 ~行政サービスの向上と事務の効率化

社会情勢の変化に伴う市民ニーズに対応するため、将来発生する機構改正やICT技術の進展などに柔軟に対応できる可変性に配慮し、業務効率を高めることができる自由度の高い庁舎を目指す。

市民の利用頻度が高い窓口部署の低層階への集約配置により、市民の利用しやすさ、わかりやすさに配慮する。

#### （4）自治体の顔・まちづくりの拠点となる庁舎

周辺景観に配慮したランドマーク・まちのシンボルとしての庁舎を実現し、市民が誇れる自治体の顔となる庁舎を目指す。

本庁舎・保健福祉会館・分庁舎及び大供公園、鹿田駐車場等の周辺立地機能と連携した再生を視野に、大供周辺に相応しい魅力的なまちづくりの拠点としての庁舎を目指す。

#### （5）環境に配慮した庁舎

先進的な環境技術の導入や自然エネルギー等の活用による環境負荷軽減に配慮しつつ、ライフサイクルコストの低減を目指す。

公園と一体化した緑あふれる環境整備など、庁舎整備に伴う周辺環境への影響に配慮する。

## 2. 新庁舎の機能・性能

### (1) 市民窓口機能

窓口機能をできる限り集約し、ワンストップサービス化を進めるなど、市民にとってわかりやすく利用しやすい窓口機能を目指す。

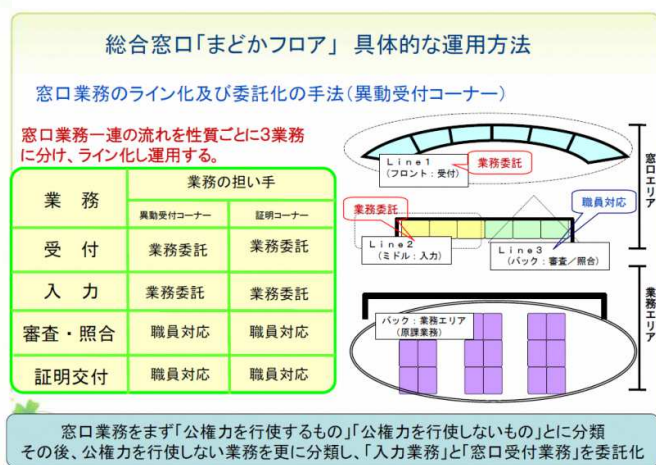
#### ① ワンストップ窓口、窓口部署の低層フロアゾーニング

北区役所窓口機能の分散化を解消し、新本庁舎に集約することで、窓口機能を低層階に配置しワンストップサービスにより利便性を向上する。



資料) 大野城市ホームページ

- ① 総合案内センター
- ② 証明コーナー
- ③ 異動受付コーナー
- ④ 届出相談コーナー (国保・医療・年金)
- ⑤ 届出相談コーナー (子育て支援)
- ⑥ 福祉サービス案内コーナー
- ⑦ しようめい君コーナー
- ⑧ 情報スペース



資料) 総務省 HP

#### ② 窓口機能のユニバーサルデザイン、キッズスペース

車いす利用者向けローカウンターの設置や、誰もが利用しやすい多目的トイレの設置、わかりやすいサインによる誘導など、ユニバーサルデザインの導入を目指す。

また、子育て関連の窓口の近くにキッズスペース・授乳室を配置する等、子育て世帯の来庁者へも配慮した機能導入を目指す。



窓口部門のワンフロア化/小牧市



使いやすい記載台/つくば市



キッズコーナーと隣接した授乳室/小牧市

### ③ 駐車場と本庁舎の動線配慮

駐車場と本庁舎の動線の長さや雨天時を考慮し、庁舎に隣接した屋根付き駐車場や車寄せ等の設置（雨に濡れずに市庁舎に入れる）や、車いすマークの駐車場（身体障害者等用駐車場）の庁舎に近い位置への整備等を検討する。

## （２）交流・協働機能

市民の協働・参画のイベントの開催、市政情報・観光情報、歴史・文化に関連する情報発信、市民の憩い・交流の多目的スペース等、市民が集い、立ち寄りやすい空間づくりを目指す。

### ① 市民の協働・参画、コミュニティ（多目的利用の可能なイベント・展示スペース等）

エントランスホールや屋外広場、多目的スペース、展示スペースなど、市民が日頃から憩い・交流できるスペースを設け、市民が協働・参画するイベントなどの企画に対応できる空間づくりを検討する。



資料) 町田市ホームページ

### ② 情報提供機能（広報ビジョン、情報コーナー）

広報ビジョンや情報コーナーの設置により、福祉・まちづくり・イベント等の市政情報、観光情報の発信だけでなく、市民の交流・協働のきっかけとなる情報が入手・発信できる環境を整えることを検討する。

また、現在の市民ホールの利便性を向上させ、様々な展示・販売ができるスペースを確保するとともに、来庁者に岡山市の歴史、文化などを身近に感じてもらえるように、関連する展示や情報発信機能（エントランスホールなど）の導入を検討する。

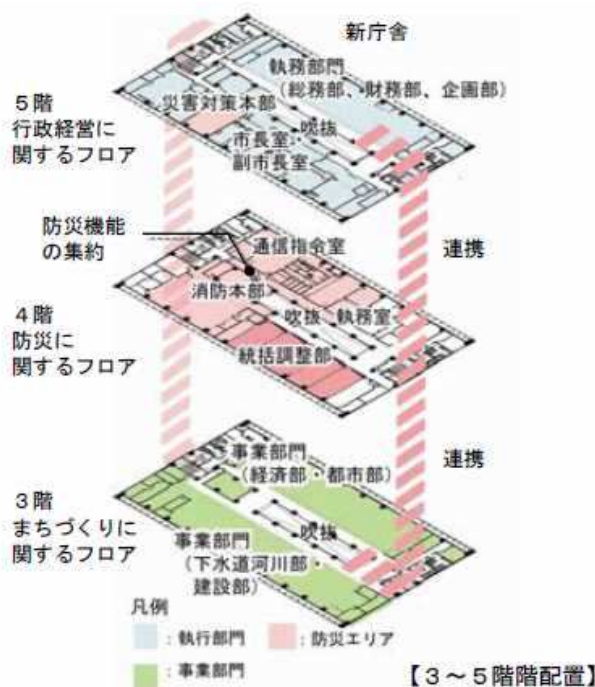
### (3) 防災拠点機能

災害対応の中心である防災拠点機能の強化を図り、災害時の業務継続性を確保するため、耐震性に優れ、ライフライン途絶対策等に対応した災害に強い庁舎を目指す。

#### ① 災害対策本部機能（災害対策部局のフロアゾーニング）

防災に係る部局を同じまたは近いフロアに集中し、災害対策本部機能等も集約させ、災害対応時の動線短縮、情報連絡の円滑化を検討する。

茅ヶ崎市新庁舎防災機能の集約



資料) 国土交通省「防災拠点等となる建築物に係る機能継続ガイドライン検討委員会」会議資料

災害対応業務に従事する職員支援機能（更衣室、シャワー室、仮眠室等）の充実や、外部機関・職員を受け入れる受援スペースの確保を検討することで、災害時の業務継続性の確保を目指す。

#### ② ライフライン途絶対策

ライフラインの途絶等に対応した庁舎機能の維持・継続のための自家発電設備、自然エネルギー設備の活用、雨水・井水を利用したトイレ洗浄などを検討する。また、備蓄機能（水・食料・燃料等）の充実を検討する。

## (4) 執務機能

職員が効率よく快適に業務が行え、市民サービスの質の向上を図り、将来的な組織改編等への対応も可能な執務機能を検討する。

### ① 執務室

#### ア) 分散化の解消

本庁舎・保健福祉会館・分庁舎、民間ビルに分散している執務機能をできるだけ集約し、来庁者の利便性の向上と業務の効率化を図る。

#### イ) 働きやすく、効率のよい執務環境

職員が効率よく快適に業務が行える適切な広さの執務スペースを確保し、組織変更フレキシブル性があるユニバーサルレイアウトなどの採用を検討することで、執務空間の効率的な利活用を目指す。



資料) 川崎市ホームページ (平成27年5月供用開始)

	島型オフィスレイアウト	ユニバーサルレイアウト	フリーアドレスレイアウト
レイアウトイメージ			
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>部署、課を「島」単位として並べ、様々な単位の「島」が混在したレイアウト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「島」の単位を統一化し、組織変更に対して、机はそのまま「人」と「書類」の移動だけで対応できるレイアウト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人の席を固定せず、複数の職員がスペースを共有するレイアウト</li> </ul>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織単位でのコミュニケーションが取りやすい</li> <li>組織単位での書類、備品管理がしやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織変更に対するフレキシブル性がある</li> <li>職員同士のコミュニケーションが活性化(部署間連携が強化)しやすい</li> <li>動線が明確・簡素化しやすい</li> <li>執務スペースのコンパクト化が図れる</li> </ul>	(左記に加え) <ul style="list-style-type: none"> <li>組織単位にとらわれない幅の広いコミュニケーションが図れる</li> </ul>
デメリット(課題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織変更時に仕器のレイアウト変更、配線工事、引越し作業が発生する</li> <li>人員増減により使えないデッドスペースが発生しやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕器タイプの統一化によるイニシャルコストが増加</li> <li>早い段階での書類管理、備品管理の統一化が必要</li> <li>役職者の席次検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕器一新によるイニシャルコストの増加</li> <li>組織単位でのコミュニケーションが図りにくい</li> <li>早い段階での書類管理、備品管理の統一化が必要となる</li> </ul>



## ② 会議室

利用頻度に応じた適切な広さの打合せ・会議スペースを確保する。

可動間仕切りにより会議人数に応じて利用が可能になるなど、利用効率の向上を検討する。

窓側スペースに打合せ兼作業スペースとして配置するなど、小規模・多頻度の身近な打合せ・作業スペースを確保する。



資料) 中野市ホームページ

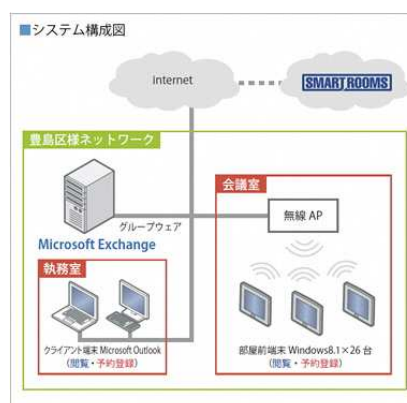
窓側の打合せ兼作業スペース

資料) 板橋区ホームページ

自席端末だけでなく、部屋前端末でも予約状況閲覧・予約登録が可能になるなど、利便性の高い会議室運用システムの導入を検討し、利便性の向上を目指す。



資料) 豊島区導入事例 : UCHIDA ホームページ



## ③ 書庫・倉庫

効率的な文書管理・活用体制の構築により、文書保管量のスリム化を検討する。

その上で、書庫・倉庫の適切な配置・スペースの効率化を検討する。

また永久保存資料等の重要度の高い紙資料保管は空調設備導入、浸水リスクの低いフロアへの配置に配慮する。

#### ④ 情報通信（ICT活用、無線LAN、Wi-Fi等）

働き方改革の社会要請の中で、ICTを活用した新しい働き方（スマートワーク）の導入を検討する。

庁舎には膨大な量の個人情報を保管していることから、庁舎への不正侵入や個人情報の流出に対し、十分なセキュリティ機能を装備する。（ICカード等による入退室管理、庁内サーバーセキュリティ強化等）



資料) 総務省ホームページ

#### (5) 議会機能

ICT設備等の導入を検討することで、議会機能の充実を図るとともに、より市民に身近に感じてもらえるように傍聴機能や情報提供機能の充実を図る。

##### ① 議会機能の充実

議場や委員会室のICT設備の導入等を検討することで、より活発な議会活動の促進を目指すとともに、議場、委員会室等は、議会運営に支障の無い範囲で兼用機能を持たせることを検討する。

##### ② 市民に身近な議会（傍聴しやすい議場）

議会の独立性を保つため、行政機能のエリアと明確に区分する配置とした上で、傍聴する市民の利便性向上や安全性などユニバーサルデザインに配慮した設計や議会活動の情報提供機能の充実を目指す。

## (6) まちづくり・周辺施設

本庁舎・保健福祉会館・分庁舎及び大供公園、鹿田駐車場等の周辺立地機能と連携した一体的な再整備により、大供周辺に相応しい魅力あるまちづくりの拠点形成を図るとともに、市民が誇れる自治体の顔となる庁舎を目指す。

来庁者及び周辺立地機能利用者の相互の利便増進に資する機能の導入を検討する。

### ① 自治体の顔となる庁舎

現在の本庁舎は、岡山駅から南真正面に位置し、岡山駅から市役所筋に向かって見通すことができ、岡山市のランドマーク的存在となっている。

庁舎整備にあたっては、このシンボル性を継承しつつ、周辺景観に配慮したうえで、市民が誇れる自治体の顔となる庁舎を目指す。

東遊園地から見る神戸市役所 2 号館



資料) 神戸市ホームページ

### ② 利便増進（カフェ・コンビニ、銀行等）

市民が日常的に気軽に立ち寄れるコンビニ、カフェ、レストラン、銀行などの店舗を庁舎・公園に併設整備することを検討する。

利便促進機能の運営には民間事業者ノウハウを有効活用するため、PPP（官民連携）手法の導入も視野に検討する。



資料) 横浜市ホームページ

### ③ 大供公園（公園広場と一体化したアメニティ）

貴重な都市公園の規模拡張・魅力化により庁舎前広場と都市公園が一体化した都市アメニティの形成を検討する。

平成 29 年の都市公園法改正により創設された Park-PFI 制度の導入を検討し、都心に位置する都市公園である大供公園の更なる魅力向上と庁舎来訪者にとっての利便の向上を検討する



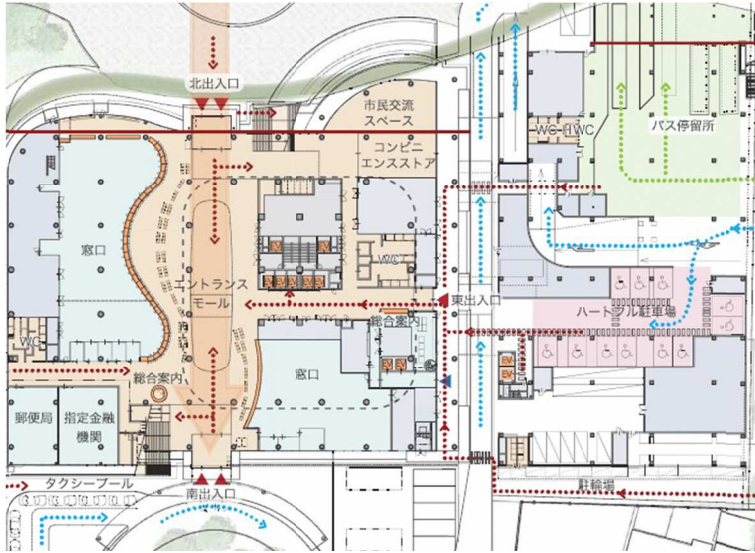
資料) 名古屋市ホームページ



#### ④ 公共交通によるアクセス改善

現状では自動車による来庁者が多いものの、高齢化の進展に伴い自動車以外の交通手段で来庁される方が増加してくることが考えられる。

公共交通（タクシー、バス等）による本庁舎へのアクセス改善を視野に検討を行う。



※バス停留所やタクシープールを庁舎出入口付近に配置


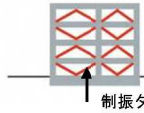
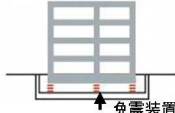
資料) 岐阜市ホームページ

### (7) その他庁舎に求められる共通性能

新庁舎に備えるべき機能を検討する際に、「共通的に求められる性能」として、耐震性・安全性、ユニバーサルデザイン、経済性、環境負荷軽減の視点から導入機能の検討を行う。

#### ① 耐震性と安全性の確保

新庁舎は、防災拠点として、大規模地震が発生しても倒壊せず、来庁者・職員の安全の確保を保障することはもとより、被災後、救援活動の拠点として直ちに災害復旧業務に着手できるように、庁舎機能を継続できる耐震性能が求められる。

	耐震構造	制震構造	免震構造
概要	構造部材の耐力を高める 	制震ダンパー等による地震力の吸収  制振ダンパー	積層ゴム等免震装置による地震力の低減  免震装置

構造形式としては、「耐震構造」「制震構造」「免震構造」があげられ、大地震に対して構造耐力上支障がなく、震災後補修することなく建物を使用する必要があり、今後の検討の中で、建設費用、工期、維持管理コスト等を総合的に加味して構造形式を決定する。

## ② 誰もが安全に利用できるユニバーサルデザイン

車いすマークの駐車場（身体障害者専用駐車場）、来庁者の相談に応え案内する総合案内、庁内誘導表示における分かりやすい案内サイン（ピクトグラム、多言語表記、触知案内図・音声案内・文字情報端末等）、誰でも利用しやすい多目的トイレの設置など、年齢、性別、障害の有無に関わらず、全ての人が安全に利用できるユニバーサルデザインに配慮した庁舎を目指す。

## ③ 経済性（長寿命化と財政負担の軽減）

### ア) 長期間有効に使い続けられる庁舎の実現

スケルトン（構造体）とインフィル（内装・設備）を明確に分ける考え方を導入し、構造体は長期間の耐久性を保持しつつ、内装や設備の更新、間取りのニーズの変化にも柔軟に対応できるようフレキシビリティを持たせることで、長く使い続けられる庁舎の実現を目指す。

メンテナンスのしやすい設計を採用することで維持管理費を削減する。

### イ) 官民連携による事業手法

新庁舎の整備においては、将来にわたる公共施設の適正管理を見据え、市財政負担の軽減を図りつつ、効率的・効果的に事業を推進していく必要がある。そこで、民間事業者の資金や建設・運営ノウハウを活用するPPP手法の導入を視野に検討し、従来型の事業手法とPPP手法による新庁舎整備を比較し、導入可能性を検討する。

## ④ 環境負荷軽減

### ア) 先進的な環境技術の導入とライフサイクルコストの低減

日射の遮蔽、断熱性、気密性など、建物の外皮（外壁・開口部など）の基本性能を高めるとともに、高効率な環境設備機器や制御・管理システムを導入することを検討し、環境負荷を軽減しつつ、ライフサイクルコストの低減を目指す。

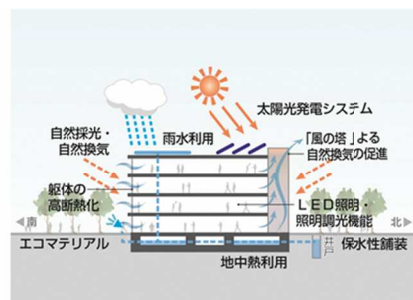
### イ) 自然エネルギーの活用

太陽光発電・地中熱利用設備や自然換気・自然採光を活用したシステム、雨水・井水を利用した設備など、自然の力を有効に利用した設備の導入を検討する。

公園と一体化した緑あふれる環境整備により、構内緑化を推進し、潤いある環境づくりを目指す。



水平庇と縦ルーバー／安曇野市



環境配慮のイメージ